

総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会

持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会（第25期・第3回）

議事要旨

日 時 令和3年10月27日（水）10:00～12:00

会 場 遠隔会議

出席者：岩城、大久保（委員長）、小澤、川村（幹事）、佐々、佐々木、佐藤（幹事）、土谷、野村、山崎、笠、木戸、八木（オブザーバ）（敬称略）

議事次第

- （1）議事録確認
- （2）公開シンポジウム開催について
- （3）論文集作成について
- （4）洋上風力発電と水産業

配布資料

資料1：第2回議事要旨

資料2：シンポジウム案

資料3：論文集案

（1）議事録確認

確認された。

（2）公開シンポジウム開催について

公開シンポジウム案について、大久保委員長より説明があった。

- ✓ エネルギーと科学に関わる分科会と IUGS 分科会の共同主催とする。
- ✓ 開催場所は日本学術会議講堂とし、会場参加とリモート参加のハイブリット方式を検討。
- ✓ 講堂での使用時間は10時～18時。
- ✓ リモート参加には、ズームやWebExなどが必要。
- ✓ 海外の講演者は、動画を流す方向でやりたい。

開催日は2021年6月3日（金）、6月10日（金）（予備日）とし、講堂を予約することにした。リモート参加用のファシリテーターは野村委員が、ロジスティックスは海底地質リスク評価研究会で準備することとする。

講演タイトル等について修正等が必要であれば大久保に連絡。

公開シンポジウム案について、今回の意見を反映させ、また講演時間を20分程度として時間配分、休憩時間も考慮し案を作成し、メールで議論することとする。

（３）論文集作成について

論文集案について川村委員から説明があった。

- ✓ 特集号のタイトル「洋上風力発電と海底地質リスク」
- ✓ 出版：海洋出版（月刊地球）
- ✓ 原稿規模：総説 5-7 ページ（8000-11000 字）、短報 2-4 ページ（3000-5000 字）
- ✓ カラー印刷：可
- ✓ 出版スケジュール：2022 年 2 月末 原稿締め切り、2022 年 5 月下旬 印刷完了、2022 年 6 月出版
- ✓ 査読なしで、最先端の知識や考え方、やり方やアイデアなど
- ✓ 追加原稿も受け付け
- ✓ 今後タイトル等について川村委員がまとめる。
- ✓ 講堂での論文集販売は手続きすれば可能。

（４）洋上風力発電と水産業

八木信行先生（東京大学大学院 農学生命科学研究科 農学国際専攻）より説明があった。

- ✓ ヨーロッパの方では漁業権のコンフリクトはあまりない。ヨーロッパの漁業管理は総量規制で、日本は海域を配分。ヨーロッパでは場所が取られても別のところで魚を取れば良いという発想。
- ✓ 日本の漁業では洋上風力の生態系への影響はかなり気にしている。
- ✓ 海洋生物環境研究所では洋上風力と漁業、海洋環境の関係について研究している。
- ✓ 海底ケーブルが漁業権の外になるとステークホルダーが増え、交渉が大変になる。
- ✓ 洋上風力の開発は都道府県が手をあげてはじめて促進区域に選ばれる。
- ✓ 自治体の中でも、積極的な産業の部局と消極的な漁業の部局が共存。
- ✓ メンテナンスにおいて地元経済が関与するので、便益の波及効果を産業連関表を用いて計算した論文もあり。
- ✓ 基礎部が漁礁になる、トラス構造をイクスにするなどの研究があるが、魚が取れやすくなるかについての確たる結論はない。

以上